

平成25年度中央農研オープンラボ活用促進セミナー
「地域伝統・在来作物の病虫害防除対策と
環境保全型農業技術によるブランド化」
開催要領

1. 趣 旨

長年、日本各地の食文化や習慣の伝承的役割を担ってきた農作物は、我が国の貴重な財産です。それらは、その地域の人間性や社会性を育む媒体として文化の維持・継承に寄与してきました。我が国の地域農業を理解する上において、それら伝統・在来作物の安定生産を確保することは深い意味があると考えられます。

一方、我が国の農業生産は、国内消費食材の約6割を海外産に依存していることから、世界の農作物貿易に大きく影響されています。近年では、環太平洋連携協定（TPP）等の国際協議の進捗が世間を賑わし、我が国の今後の農業振興の行方を大きく左右する状況となっています。

そこで本年度のセミナーでは、関東東海北陸の各地域で小規模ながらその地域の食文化や習慣・風習などを支えている伝統作物に焦点を当て、日本古来の農作物のブランド化に貢献する環境保全型病虫害防除技術について考えます。これは、「攻めの農業」に向けた農地の大規模化等には必ずしも馴染めない高齢化が進む中山間地域の農業の一つの方向性を示すことにも繋がると思われます。

このような背景を受けて、地域伝統・在来作物の生産に関する現状を関係者間で共有するとともに、環境保全型病虫害防除技術を用いた伝統作物のブランド化戦略について議論します。

2. 開催日時： 平成26年2月25日（火）13:30～平成26年2月26日（水）12:00

3. 開催場所： 中央農研・環境保全型病虫害防除技術開発共同実験棟
（環境保全型オープンラボ）セミナー室

4. テーマ： 地域伝統・在来作物の病虫害防除対策と環境保全型農業技術によるブランド化

5. 主催： （独）農研機構 中央農業総合研究センター

6. 参加費： 無料

7. 参加申し込み

- ・事前登録をお願いします。または、お名前、所属、連絡先（電話またはメール）を記入し、申込先へFAXまたは電子メールでお申込みください。（2月17日（月）まで）
- ・申込先：（独）農研機構・中央農業総合研究センター 業務推進室 交流チーム

Tel:029-838-7158 Fax:029-838-8574

E-mail: kouryu-narc@ml.affrc.go.jp

8. 実施内容

(1) 開会

(2) 挨拶 農研機構中央農業総合研究センター

(3) 研究成果発表

1) 伝統・在来作物についての総論

「日本の伝統野菜－由来と現状、多様性、可能性」

（公財）東京都農林総合研究センター 所長 望月龍也

- 2) 行政組織における伝統・在来作物に対する取り組み
「伝統作物に関連する農林水産省の取組について」
農林水産省大臣官房政策課 研究専門官 西尾善太
- 3) 地域における伝統・在来作物に対する取り組み（病害虫対策等の事例紹介）
「加賀・能登の特産伝統野菜の取り組み」
石川県中央農林総合事務所津幡農林事務所 所長 谷口光男
「岐阜県飛騨地域特産の宿儺かぼちやの安定生産」
岐阜県中山間農業研究所 試験研究部 部長 袖垣一也
- 4) 種苗メーカーにおける伝統・在来作物に対する取り組み
「「甲ではない。」伝統野菜という名の品種」
福井シード株式会社 代表取締役社長 井村裕治

(4) 総合討議

(5) 都県参加者からの報告

自治体管内における地域伝統・在来作物栽培の現状とそれらに発生する病害虫対策、およびそれら作物のブランド化に向けた試み（事例紹介）等

(6) 開会
